きいのは

令和６年５月２２日

小田原市立新玉小学校

校長　山田　明子

学校教育目標「心豊かに　たくましく生き抜く　子どもの育成」

～自分で考え　表現する子～

５月９日、元埼玉県公立小学校長の田畑栄一先生をお招きし、「温かい笑いのある学校をめざして」というテーマで職員研修を行いました。田畑先生はいじめや不登校を予防する学校づくりをめざして「教育漫才」を提唱した方です。「漫才」と聞くと「お笑い」と同じと思いがちですが、「教育漫才」にはマイナス言葉や暴力はいけない、という明確なルールがあり、これを守ることで４月号でもお伝えしたような「温かい笑い」が生まれます。この日は先生方も２～４人のグループとなり、「ネタ」を作って発表しあいました。

子どもたちにも「自分で考え表現する力」をつけ、「温かい笑い」を実感してほしいと考えています。昨年度は６年生だけでしたが、今年度は全学年で「教育漫才」に取り組みます。人前で話すのは苦手な子もいるかもしれません。しかし、本校のめざす子ども像にある「前向きにチャレンジする子」に近づけるよう、挑戦してほしいと思います。

～意見をつなぐ学び合い～

本校の校内研究主題は「児童の主体的・対話的で深い学びを生み出す授業の追究」です。サブテーマに「意見をつなぐ学び合い」と題して研究を始めています。９日に続いて 17 日は再び田畑先生による６年生国語「帰り道」の授業実践を行いました。田畑先生は元々中学校の国語科の先生です。物語の三大要素（人物・場所・時間）の確認や意見をつなぐために一人ひとりが表現し合う関係性の大切さを学びました。また、「意見をつなぐ学び合い」には「発言権の平等性・公平性」と「相互承認」という理念があります。これから学習を進めながら、子どもたちに具体的な場でこれらを浸透させていく必要があると考えています。

この日行われた４時間目と５時間目の授業では、「なぜ、〇〇さんはこう考えたのか。〇〇さんの気持ちになって考えよう。」という先生からの問いかけに対して、じっくりと思考する６年生の姿がたくさん見られました。

今後、研修で学んだことを生かして、授業の中で「意見をつなぐ学び合い」ができるよう、取り組んでいきます。

～「津波てんでんこ」自分の命は自分で守る～

「津波てんでんこ」という言葉を知っていますか。これは岩手県三陸地方に伝わる言い伝えです。「津波が来たらてんでんばらばらに高台に逃げろ！」という教えです。岩手県では従来から津波防災教育が行われていました。これは明治三陸地震（1896 年・明治 29 年）の津波発生が始まりのようです。

５月 14 日に津波警報が発令されたことを想定した避難訓練を実施しました。東日本大震災で岩手県宮古市付近を襲った津波は時速 115 キロに達していたそうです。新年早々、起きた能登半島地震では地震の直後 1 分以内に津波が観測されたとの報告もあります。

去る５月１日には中学校区合同引き取り訓練が行われました。引き取りは、津波警報が出されていないことが条件となります。地震が起きた時「危険なものが落ちてこないか、倒れてこないか」を確認すること、そして、命を守るために「頭を守る」ことが大事です。いざという時ランドセルやカバンがヘルメットがわりになることも覚えておいてほしいです。災害時、いつも大人が身近にいるとは限りません。自分で考え行動できる子どもを私たち大人が育てていかなければならないと強く感じます。

水泳指導について

今年度は神奈中スイミングの閉館に伴って、三の丸小学校で水泳指導を行います。場所は変わりますが、指導は引き続き、神奈中スイミングのコーチにお願いすることになりました。三の丸小学校までの移動は、教育委員会が手配した貸し切りバスを使います。道路の歩き方や安全なバスの乗降を含めて楽しい水泳学習になるとよいです。

なお、学校からのお便りでお知らせしたように他校での実施となるため水泳学習の参観はできません。保護者の皆様のご理解をよろしくお願いします。